

文化人類学

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
文化人類学概論	文化人類学の理論と歴史 1□	2	川口 幸大	3	火曜4限
文化人類学概論	文化人類学の理論と歴史 2□	2	川口 幸大	4	火曜4限
文化人類学基礎講読	専門文献読解1	2	越智 郁乃	3	火曜3限
文化人類学基礎講読	人新世におけるアマゾニア:人々、土壌、植物、森林	2	後藤 健志	4	火曜3限
文化人類学基礎演習	専門文献読解1	2	川口 幸大	3	月曜4限
文化人類学基礎演習	文化人類学基礎演習	2	AI YU	4	月曜4限
文化人類学各論	文化人類学各論	2	BORET USAGE P ENMELLEN BORE T SEBASTIEN	6	火曜2限
文化人類学演習	文化人類学演習	2	越智 郁乃	5	月曜4限
文化人類学演習	文化人類学演習	2	中野 惟文	6	月曜4限
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大	5	水曜3限、 水曜4限
文化人類学実習	フィールドワーク実習	2	川口 幸大	6	水曜3限、 水曜4限

科目名：文化人類学概論

曜日・講時：火曜 4 限

semester：3 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB32401, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文化人類学の理論と歴史 1

2. 授業の目的と概要：文化人類学という学問分野について、その理論と歴史を学ぶ

3. 学習の到達目標：文化人類学の理論と歴史を習得する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODakション
- 2 文化人類学とは① 文化とは
- 3 文化人類学とは② 人類とは
- 4 文化人類学とは③ 文化人類学とは
- 5 進化主義①
- 6 進化主義②
- 7 伝播主義
- 8 機能主義①
- 9 機能主義②
- 10 アメリカの文化人類学
- 11 文化相対主義
- 12 構造主義
- 13 象徴人類学
- 14 まとめ
- 15 総合振り返り

5. 成績評価方法：授業後のミニツツペーパー 50%

学期末考査 50%

6. 教科書および参考書：参考書『文化人類学 20 の理論』綾部恒雄(編)2006、弘文堂

7. 授業時間外学習：毎回の復習

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学概論

曜日・講時：火曜 4 限

semester：4 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB42401, 科目ナンバリング：LHM-CUA201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文化人類学の理論と歴史 2

2. 授業の目的と概要：前期に引き続き、文化人類学という学問分野について、その理論と歴史を学ぶ

3. 学習の到達目標：文化人類学の理論と歴史を習得する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 前期の振り返り
- 2 構造主義
- 3 象徴／解釈人類学
- 4 実践とハビトゥス
- 5 フェミニズムと人類学
- 6 『文化を書く』と『オリエンタリズム』批判
- 7 歴史と脱構築
- 8 参与する人類学
- 9 グローバリゼーションと移動の人類学
- 10 存在論的転回
- 11 主体と ANT
- 12 マルチスピーシーズ
- 13 これからの人類と文化人類学
- 14 まとめ
- 15 総合振り返り

5. 成績評価方法：授業後のミニッツペーパー 50%

学期末考査 50%

6. 教科書および参考書：参考書『21 世紀の文化人類学：世界の新しい捉え方』前川啓治 [ほか] 著、2018 年、新曜社

7. 授業時間外学習：毎回の復習

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学基礎講読

曜日・講時：火曜 3 限

semester：3 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB32304, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：専門文献読解 1

2・授業の目的と概要：この授業では、佐塚志保の著作 *Nature in Translation: Japanese Tourism Encounters the Canadian Rockies* の講読を通して、ツーリズムを通じた「文化の翻訳」について人類学的に理解することを目的とする。この授業は、学術的な英文の読解力向上を目指す。受講生は、教材テキストを毎回 5-6 ページ程度予習して授業に臨み、順番に訳文を発表する。

- 3. 学習の到達目標：**(1) 専門英語文献の読解力を養う。
(2) ツーリズムを通じた自然と文化の翻訳プロセスについて人類学的なものの見方を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：イントロダクション

第 2 回から第 15 回は以下著作内容を順次訳し、議論する。

Prologue. A Journey to Magnificent Nature . . . or Why Nature Needs to Be Understood in Translation

Introduction

1. Narratives of Freedom
2. Populist Cosmopolitanism
3. The Co-Modification of Self
4. Gender in Nature Neverland
5. The Interpretation of Nature
6. The Allure of Ecology

Epilogue. Found in Translation

毎回、5-6 ページ分の訳文を準備して授業に臨み、授業での討論を踏まえて、自分の訳文を修正する。その他、人名や専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つける癖をつけて欲しい。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけましょう。

5. 成績評価方法：毎回の授業での訳文の準備と口頭発表 (40%) 出席と議論 (60%)

6. 教科書および参考書：テキストを授業中に配布する。

7. 授業時間外学習：毎回の授業前に約 5-6 ページ分の訳文を準備し、授業後は授業での討論を踏まえて自分の訳文を修正する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学基礎講読

曜日・講時：火曜 3 限

semester：4 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB42307, 科目ナンバリング：LHM-CUA202J, 使用言語：日本語／英語

1. 授業題目：人新世におけるアマゾニア：人々、土壌、植物、森林

2・授業の目的と概要：この授業では、文化人類学の専門文献を読むことで、学術英語の読解力向上を目指す。テキストとしては、アマゾン川流域地方を扱った Nicholas Kawa の民族誌を扱い、先コロンブス期に遡る人間と環境の相互形成の諸相に関して人類学的理解を目指す。受講生は、毎回教材テキストを 8-9 ページ程度の訳文を準備して授業に臨み、順番に発表し、内容に関して議論する。

3. 学習の到達目標：“(1) 文化人類学の専門文献に触れ学術英語の読解力を養う。

(2) 人新世と呼ばれる世界における人間、土壌、植物、森林などの存在を人類学的に捉えていくための理論と方法を学ぶ。”

4. 授業の内容・方法と進度予定：

“第 1 回：イントロダクション

第 2 回から第 15 回は以下の内容を順次訳し、議論する。

Chapter 1 Amazonia in the Anthropocene

Chapter 2 People

Chapter 3 Soils

Chapter 4 Plants

Chapter 5 Forests

Chapter 6 From the Anthropocene to the Ecozonic?

毎回、訳文を準備して授業に臨み、授業での討論を踏まえて、自分の訳文を修正する。人名、専門用語、民族名などについては、英語辞書だけでなく、各種事典を使って、最適の訳語を見つけるように努めること。本文中で参照された先行研究にも関心を向け、網羅的に学習すること。英語を「使って」専門を学ぶという態度を身につけること。”

5. 成績評価方法：毎回の授業での訳文の準備と口頭発表（60%）、出席と議論への貢献度（40%）

6. 教科書および参考書：Kawa, Nicholas (2016) Amazonia in the Anthropocene: People, Soils, Plants, Forests. Austin: University of Texas Press. テキストを授業中に配布する。

7. 授業時間外学習：毎回の授業前に翻訳を準備し、授業後は議論を踏まえて修正する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学基礎演習

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB31402, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：専門文献読解 1

2・授業の目的と概要：文化人類学の基本的な考え方と研究のされ方について学ぶ。毎回テキストに沿って特定のテーマを扱い、その主題について、および日本を含めた各地域の特性と共通性について理解を深める。

3. 学習の到達目標：基礎文献の講読と討論を通して、文化人類学の主題と思考法について学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- ① インTRODダクシヨン
- ② 序章
- ③ 環境と生業
- ④ 経済
- ⑤ 移民
- ⑥ 親族と結婚
- ⑦ 法と政治
- ⑧ 民族と国民
- ⑨ 神話と宗教、呪術
- ⑩ 歴史
- ⑪ 難民、植民地
- ⑫ 開発と支援
- ⑬ マルチスピーシーズ
- ⑭ 存在論
- ⑮ まとめ

5. 成績評価方法：授業中の発表、発言：最終レポート＝5：5

6. 教科書および参考書：授業中に指示する

7. 授業時間外学習：毎回の授業の予習

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学基礎演習

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：A I Y U

コード：LB41404, 科目ナンバリング：LHM-CUA203J, 使用言語：日本語、英語

1. 授業題目：文化人類学基礎演習

2. 授業の目的と概要：文化人類学で扱うエスニシティ、宗教や移動などの重要なテーマについて英文テキストを読むことで、英文読解力の向上と、人類学の理論と方法の初歩的理解を目指す。受講生は毎回 4～5 頁程度予習をして授業に臨み、各段落の要約を発表する。その上で、内容について討議する。

3. 学習の到達目標：英文テキストの読解力を養い、人類学的な思考法を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

“以下のテーマをめぐる英文テキストを購読する。

グローバル時代の人類学

文化

フィールドワークと民族誌

人種と人種差別

エスニシティとナショナリズム

宗教

言語

政治と権力”

5. 成績評価方法：毎回の授業での訳文の口頭発表（50%）出席と議論（50%）

6. 教科書および参考書：授業中に指示する

7. 授業時間外学習：毎週、4～5 頁ほどの英文を読んで、要約ノートを準備する。授業後は、授業での討論を踏まえて、要約ノートを修正する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学各論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：BORET USAGE PENMELLEN BORET SEBASTIEN

コード：LB62203, 科目ナンバリング：LHM-CUA301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文化人類学各論

2・授業の目的と概要：本授業は、東北アジア諸国および関連地域の社会組織に対する人類学的アプローチを議論する。日本、中国、その他の近隣諸国の災害文化を背景にする。扱われる主題は、いわゆる「自然」災害と「人為的」災害の両方の災害に関連するものである。講義においては、社会的連帯、回復力、脆弱性、コミュニティなどの概念が取り上げられる。学生の数に応じて講義の後にグループ討論を実施し、最終的に全体の結論を導きます。

授業は全て Google Classroom のオンデマンドで行います。授業名は LB169 文化人類学各論です。

3. 学習の到達目標：本授業を通じて、受講生は以下の能力を身につけることを目標とする。

1. 脆弱性、レジリエンス、社会的連帯、宗教、記憶、気候変動など、災害研究に関連する主要な人類学的概念を理解し、説明できるようになる。
2. 東北アジアおよび近隣地域（インドネシアを含む）における自然災害および人為的災害に対する社会的対応を分析できるようになる。
3. 文化的・歴史的・宗教的文脈が、災害の経験、復興過程、長期的な社会変容にどのように影響を与えるかを批判的に検討できるようになる。
4. 現代の災害関連課題に対して人類学的視点を

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. コースの概説
- II. 「新たな常態」としての災害
- III. 災害への人類学的アプローチ
- IV. 脆弱性の理解
- V. 社会的弱者の災害体験
- VI. 災害リスク軽減のためのレジリエンス
- VII. 気候変動、適応、脆弱性
- VIII. 災害時の社会的連帯
- IX. 被災コミュニティの移住と避難
- X. 死、悲嘆、追悼 (1)
- XI. 死、悲嘆、追悼 (2)
- XIII. 宗教と災害
- XIV. 東日本大震災と仏教
- XV. 災害観光、追悼施設、語り部

5. 成績評価方法：各講義後の小テスト (60%) とミニエッセイ (40%)

6. 教科書および参考書：教科書がなし。PDF 資料を配布しますので、各講義前に必ずお読みください。参考図書：スザンナ・M. ホフマン, アンソニー オリヴァー=スミス (2006) 災害の人類学

7. 授業時間外学習：読書 (論文とチャプター) を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
学修の到達目標は、災害の文化的・社会的側面を理解していただくことです。

9. その他：

授業は全て対面で行います。

科目名：文化人類学演習

曜日・講時：月曜4限

Semester：5 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LB51405, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文化人類学演習

2. 授業の目的と概要：文化人類学の知識を展開させ、自分の研究を進展させていく

3. 学習の到達目標：毎回、文化人類学の重要な理論の講読と議論を行い、それらを元に自身の研究を発展させる。理論の学習と研究の進展の成果に基づき、最終的には卒業論文の研究計画書の草稿を完成させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODクシヨン
- 2 研究構想の第一歩：キーワード、理論的背景、民族誌的背景とは何か
- 3 民族誌のアカデミック・ライティング・スキル：日本を題材にした民族誌の構造分析
- 4 民族誌のアカデミック・ライティング・スキル：日本を題材にした民族誌の構造分析
- 5 民族誌のアカデミック・ライティング・スキル：日本を題材にした民族誌の構造分析
- 6 民族誌のアカデミック・ライティング・スキル：日本を題材にした民族誌の構造分析
- 7 民族誌のアカデミック・ライティング・スキル：アフリカを題材にした民族誌の構造分析
- 8 民族誌のアカデミック・ライティング・スキル：アフリカを題材にした民族誌の構造分析
- 9 民族誌のアカデミック・ライティング・スキル：アフリカを題材にした民族誌の構造分析
- 10 民族誌のアカデミック・ライティング・スキル：アフリカを題材にした民族誌の構造分析
- 11 民族誌のアカデミック・ライティング・スキル：アフリカを題材にした民族誌の構造分析
- 12 研究計画の構想①
- 13 研究計画の構想②
- 14 研究計画の発表①
- 15 研究計画の発表②

5. 成績評価方法：授業での発表・発言（50%）＋研究計画書（50%）

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：毎回のテキストの予習・授業での報告、研究の進展状況の発表の準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学演習

曜日・講時：月曜 4 限

Semester：6 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB61402, 科目ナンバリング：LHM-CUA302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：文化人類学演習

2. 授業の目的と概要：これまでに学んできた文化人類学の知識を発展させ、学生自身の研究を進展させていく

3. 学習の到達目標：毎回、文化人類学の重要な理論の講読と議論を行い、それらを元に自身の研究を発展させる。理論の学習と研究の進展の成果に基づき、最終的には卒業論文の研究計画書を完成させる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 インTRODクシヨN
- 2 研究構想の発表
- 3 ライテイング・カルチャー・シヨク
- 4 存在論的転回と文化人類学
- 5 マルチスピーシーズの文化人類学
- 6 研究計画中間発表①
- 7 研究計画中間発表②
- 8 研究計画中間発表③
- 9 ジェンダーの文化人類学
- 10 医療人類学
- 11 呪術と文化人類学
- 12 まとめ
- 13 総合討論
- 14 研究計画の発表①
- 15 研究計画の発表②

5. 成績評価方法：授業での発表・発言（50%）＋研究計画書（50%）

6. 教科書および参考書：授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：毎回のテキストの予習、研究の進展状況の発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学実習

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

semester：5 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB53308, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：フィールドワーク実習

2・授業の目的と概要：現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。前期は主として調査方法と資料の種類や性質を検討し、各自の関心に即した調査計画の立案をはかる。

3. 学習の到達目標：文化人類学のフィールドワークの方法と民族誌の記述の仕方を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 問題領域の確認
3. 過去の実習テーマの検討
4. 調査対象の検討
5. 調査対象の決定
6. フィールドワークの報告と討論①
7. フィールドワークの報告と討論②
8. フィールドワークの報告と討論③
9. フィールドワークの報告と討論④
10. フィールドワークの報告と討論⑤
11. フィールドワークの報告と討論⑥
12. フィールドワークの報告と討論⑦
13. フィールドワークの成果発表①
14. フィールドワークの成果発表②
15. フィールドワークの成果発表③

5. 成績評価方法：毎回の報告[50%]、最終レポート[50%]

6. 教科書および参考書：教室で指示する

7. 授業時間外学習：フィールドワークの遂行とフィールドノートの作成

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：文化人類学実習

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LB63305, 科目ナンバリング：LHM-CUA303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：フィールドワーク実習

2・授業の目的と概要：現地調査とそれに基づく民族誌の記述は、文化人類学の最も基本的な研究方法である。この授業では、調査の目的の設定や組み立て方を含めた様々な技術・方法を学習し、さらに実地に試行することを通して体験的に習得することを目標とする。後期は各自の立案した調査計画に基づいて調査を行い、その途中経過を授業で討議しながら、それぞれの調査を完結させ、その結果をまとめる。

3. 学習の到達目標：文化人類学によるフィールドワークを行い、報告書を作成する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. テーマと実施計画の再確認
2. フィールドワークの報告と討論①
3. フィールドワークの報告と討論②
4. フィールドワークの報告と討論③
5. フィールドワークの報告と討論④
6. フィールドワークの報告と討論⑤
7. フィールドワークの報告と討論⑥
8. 理論の検討①
9. 理論の検討②
10. 理論の検討③
11. 報告書の作成に関する説明①
12. 報告書の作成に関する説明②
13. 受講者の報告書の検討①
14. 受講者の報告書の検討②
15. 受講者の報告書の検討③

5. 成績評価方法：授業中の発表 [50%]
報告書 [50%]

6. 教科書および参考書：教室で指示する

7. 授業時間外学習：フィールドワークの遂行とフィールドノートおよび実習報告書の作成

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：